

ットの観測、また地上からの、太陽、電波、地磁気等の観測、そして極地の観測等が、超高層物理学のどの部分を分担し、どのような意義を持ち、どのように関連し合っているかが理解されるであろう。

この学問について、私自身、断片的な聞きかじり程度の知識しか持たせていなかっただけに、この書物によって、教えられる所極めて大きかった。

内容は極めて平易に説かれているが、学問自体が極めて複雑なだけに、この書物を理解するには、若干の自然科学的な基礎知識を必要とする。高校高学年から大学以上の学生諸氏や、天文、地球科学とそれに関連する仕事に従事する人々に是非、一読をおすすめする。

ただ、訳文がもう少し日本語としてこなれていればなお、よかったと惜まれる。また、超高層関係の学者には日常語のような SID とか PCA などの略語も、例えば訳者註としてそれぞれ、Sudden Ionospheric Disturbance, Polar Cap Absorption と原語を示された方がよかったのではないか。同じように、「磁気電離説」とか「突発E層」とかは、私が浅学のため、あまり聞いた事のない訳語なので、また、それぞれ Magneto-Ionic Theory,

Sporadic E Layer と併記された方がよかったかとも思える。

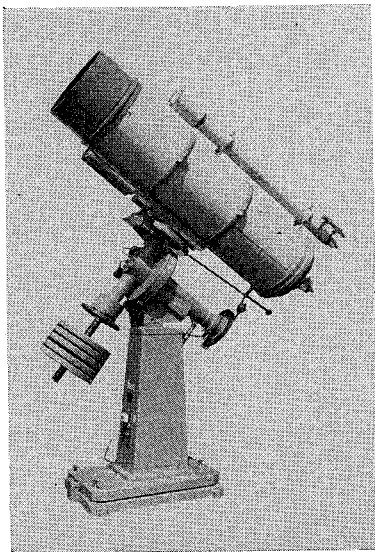
原著を見ていないが、誤訳ではないかと思われるのは137頁の太陽の「光子圏」が、これは光球とすべきであろう。Photosphere と Photonsphere の見まちがいがあるいはミスプリントではないか。

書店の棚で、「太陽・地球・電波」という表題を見ただけで、本書の内容の見当をつけられる読者は少なからう。原著の副題「電離圏と磁気圏への手引き」を表紙に併記する方が親切ではなかったろうか。(土屋 淳)

### 学会だより

#### 東京天文台公開

恒例の東京天文台公開(本会后援)が、10月14日(土)午後2時から8時まで行なわれます。台内諸施設が公開されるほか、資料の展示、映画、天体観望(夕方から)等が計画されています。なお雨天の際には中止されます。



天体望遠鏡  
ドーム、製作

## 西村製の天体望遠鏡

### 40 cm 反射望遠鏡の納入先

- |        |                     |
|--------|---------------------|
| No. 1  | 富山市立天文台             |
| No. 2  | 仙台市立天文台             |
| No. 3  | 東京大学                |
| No. 4  | ハーバート大学 (USA)       |
| No. 5  | ハーバート大学 (USA)       |
| No. 6  | 台北天文台 (TAIWAN)      |
| No. 7  | 北イリノイズ大学 (USA)      |
| No. 8  | サン・チェゴ大学 (USA)      |
| No. 9  | 聖アンドリウス大学 (ENGLAND) |
| No. 10 | 新潟大学高田分校            |
| No. 11 | ソウル大学 (KOREA)       |
| No. 12 | 愛知教育大学(刈谷)          |

606 京都市左京区吉田二本松町 27

株式会社 西村製作所

TEL. (075) 771-1570  
691-9580